

中期計画 2018年度～2022年度

アジア・世界とつながる四国瀬戸内No.1の国際空港 を目指して



高松空港株式会社

## アジア・世界とつながる四国瀬戸内No.1の国際空港

複数のLCC拠点化を進め、旅客数307万人を達成します

### 飛行場

#### 旅客数・貨物量を拡大し、空港を活性化します

複数のLCC拠点化に向けた料金施策と受入環境整備  
海外や首都圏需要をターゲットとした空港需要の取り込み

### 商業施設

#### 旅客ビルの売り上げを拡大し、エアライン誘致の原資をつくります

顧客満足度の高い魅力的な商業施設づくり

### インフラ

#### 安心・安全の空港運営を行います

長期にわたる、安全・安心な空港インフラ経営

### 公民連携

#### 地域と一体となり、地域の魅力を引き出します

エリアの魅力を高める地域との協働体制

2018～2022年度を将来イメージの実現に向けた“**成長基盤形成期間**”と位置付け、成長目標の早期達成を目指し、地域と共に各種施策をスピーディに展開していきます

## 成長目標

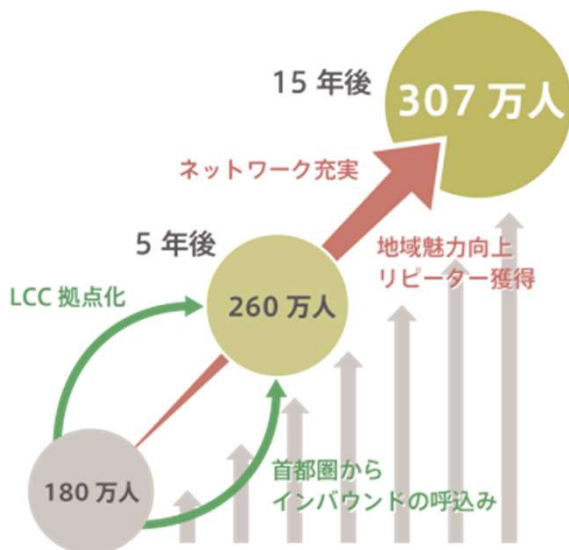
成長基盤形成期間

成長基盤に支えられた  
四国瀬戸内No.1空港

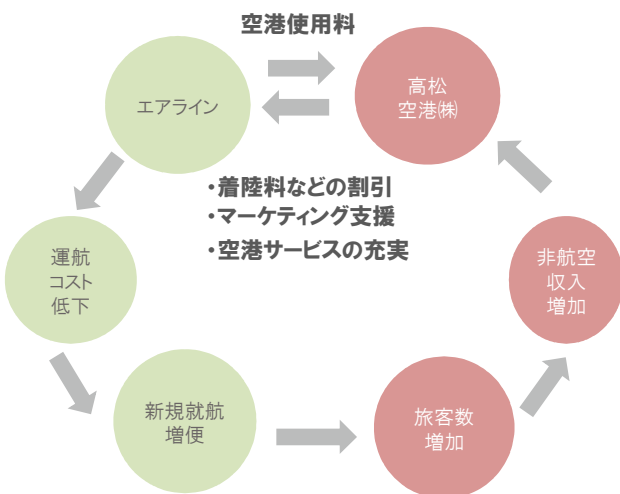
	現状 (2016年度)	5年後 (2022年度)	15年後 (2032年度)
旅客数	188 万人	260 万人	307 万人
国内	165 万人 (3路線、16便/日)	209 万人 (5路線、20便/日)	225 万人 (6路線、23便/日)
国際	23 万人 (4路線、20便/週)	51 万人 (6路線、35便/週)	82 万人 (7路線、51便/週)
取扱貨物量	0.6 万トン	1.0 万トン	1.7 万トン
旅客ビル事業収益	11 億円	20 億円台	40 億円台

## 旅客数・取扱貨物量の増加

307万人達成への成長ステップ



エアラインとのパートナーシップ

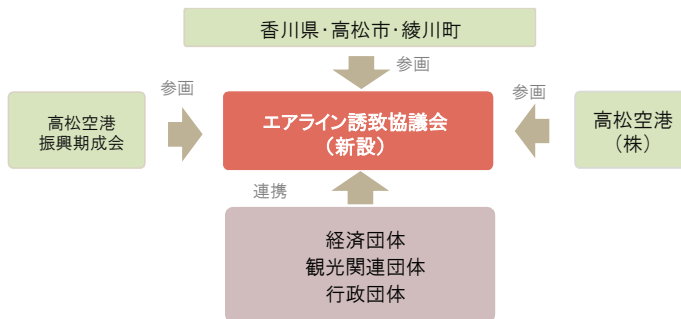


### LCC拠点化に向けたボトルネックの解消

- 駐車場の容量拡大・出口渋滞の緩和  
約1,000台 → 約1,300台
- 国際線到着の処理能力の拡大  
同時対応 1便 → 2便
- 国際線出発カウンターの拡張  
出発カウンター前の混雑緩和
- 事務所スペースの拡大  
事務所棟を新設し、LCC拠点化するために必要な事務所スペース等を確保

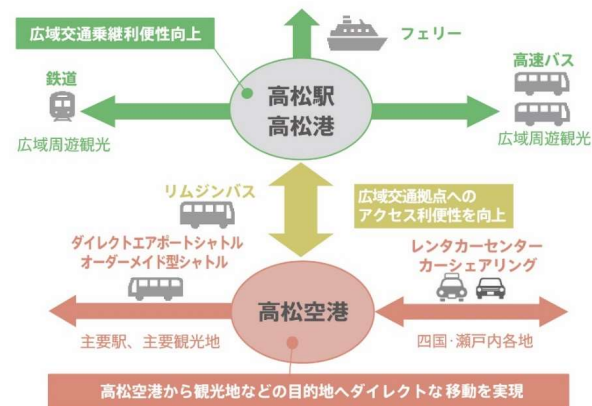
### エアラインマーケティング

- エアラインの就航意欲を喚起する料金設定
- LCCの拠点化を促進させる料金割引
- パートナーシップ協定に基づく、地域と一体となった営業体制を構築



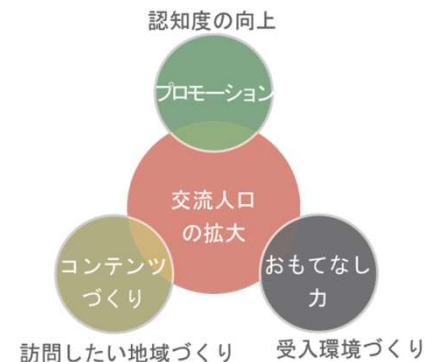
### 空港アクセスの強化

- 高松空港と高松駅・高松港とのアクセスを強化
- 高松空港から観光地へのアクセスを強化



### 旅客需要の拡大

- 国内外の就航地におけるプロモーション
- 観光客の受入環境の整備・強化
- 観光関連事業者と連携した観光コンテンツづくり





# 目標の達成に向けた主な取組み

## 旅客ビル事業収益の拡大

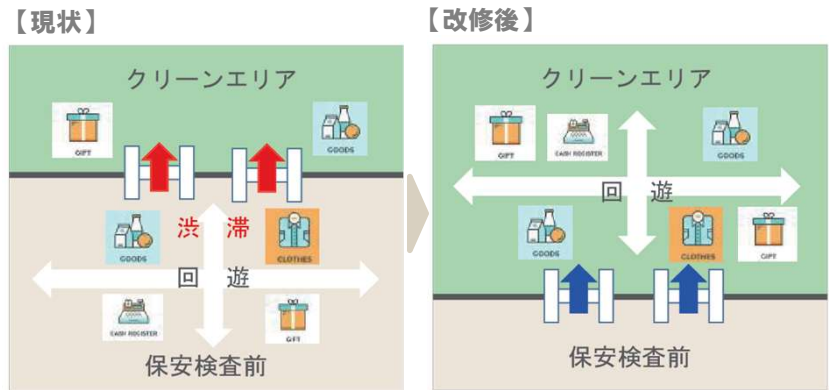
### コンセプト ~クリーンエリアの拡大~

- 現在は保安検査前のスペースに店舗が集積しており、締切直前に旅客が保安検査場に集中し、滞留が発生。
- クリーンエリア内の店舗スペースを約18倍に拡大し、魅力的な店舗を導入することで、顧客満足度と収益性を高め、エアライン誘致の原資を確保。
- クリーンエリア内に店舗集積を移すことで、保安検査場のピークを分散化させ、搭乗時刻のギリギリまでゆったりとした買い物や食事を楽しめる環境に改修。

商業施設の拡大

クリーンエリア内	180 m <sup>2</sup>	約 17.5 倍	<u>3,150 m<sup>2</sup></u>
免税店舗	120 m <sup>2</sup>	約 3.8 倍	<u>450 m<sup>2</sup></u>

クリーンエリア拡大の考え方



### 魅力的な店舗の導入

- 拡大された商業スペースにおける四国瀬戸内ブランドを発信する店舗拡大  
香川、四国、瀬戸内の名品を集めたフードコートや土産店舗の設置
- 旅客動線に合わせた店舗配置  
ウォークスルー型店舗の導入
- 免税店舗の拡張・改修

### 搭乗時刻まで快適に楽しめる空間づくり

- 旅客の多彩な過ごし方を可能とするゾーニング  
クリーンエリア内にラウンジやライブラリー空間の新設
- 出発ラウンジの快適性向上  
家具の入替えやリニューアル

### 分かりやすい施設づくり

- インフォメーション機能の強化  
インフォメーションカウンターの多言語対応の強化
- サインや動線の見直し  
施設内の動線を見直すとともに、直観的にわかりやすいサインを導入
- ホームページ等の案内サービスの強化

空港ラウンジのイメージ



フードコート(クリーンエリア内)のイメージ



## 設備投資計画

### 空港活性化を目的とする設備投資

LCC拠点化に向けた受入環境を整えるため、5年間で総額約57億円の設備投資を予定しています

- 空港基本施設  
7.5億円
- ビル施設  
45億円
- 任意事業施設  
4億円

#### <主な投資項目>

- 国内線出発ラウンジの改修
- 免税売店の拡張
- 駐車場の利便性向上・容量拡大
- 旅客ビルの増築・リニューアル
- 事務所棟の新設 等

### 空港機能維持を目的とする設備投資

安全性の維持や要求水準を遵守するため、5年間で総額約17億円の設備投資を予定しています。

- 空港基本施設  
12.5億円
- ビル施設  
4.5億円

#### <主な投資項目>

- 滑走路、エプロン、電源設備や保有車両等の修繕や更新投資

### <空港活性化を目的とする設備投資スケジュール(予定)>

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
旅客ビル	国内線出発ラウンジ改修		●				
	免税店拡張		●				
	リニューアル増築工事			●			
駐車場	利便性向上			●			
	容量拡大				●		
事務所棟の新設						●	

注: 矢印は実施期間を示しています。国内線出発ラウンジ改修、免税店拡張、事務所棟の新設は2018年度実施。リニューアル増築工事は2019年度以降実施。利便性向上は2019年度実施。容量拡大は2020年度実施。

### <設備投資後のイメージ>

